

カナンライフサポート NEWS

ちょこっと雑学

難病・パーキンソン病その②

6. この病気ではどのような症状がおきますか。

ふるえ、動作緩慢、筋固縮、姿勢保持傷害（転びやすいこと）が主な運動症状です。

姿勢保持障害は病気が始まって数年してから起こります。運動症状のほかに、便秘や頻尿、発汗、疲れ、嗅覚の低下、立ちくらみ、うつ、意欲が低下するなどの症状も起こることがあり、非運動症状と呼んでいます。

7. この病気にはどのような治療法がありますか

<治療の基本は薬物療法>

ドパミン神経細胞が減少するため少なくなったドパミンを補う薬物療法です。

<体を動かすこと>

体力を高め、パーキンソン病の治療になります。

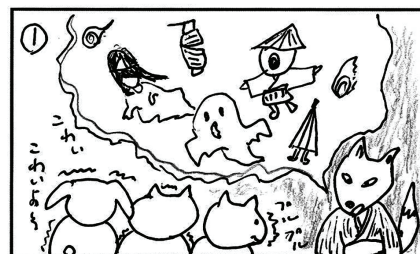
散歩やストレッチなど、毎日運動を続け体力を高めることは重要です。

<気持ちを明るく保つこと>

気分が落ち込むと姿勢も前かがみとなり、動作も遅くなります。

私たちが意欲を持って行動する時は脳内でドパミン神経が働いていると考えられています。日常生活の過ごし方も大事な治療です

ゆめちゃんの 日記



当社では病気・ガンのリスクに備えた最新の保険商品を取り扱っています

〔発行〕 株式会社 カナン

仙台市青葉区一番町 1-6-19 壺番館ビル 607

TEL: 022-397-8452 e-mail: y.sasaki@supportcanaan.com

お問合せは 佐々木・茂永まで